

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700277		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	神戸須磨ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県神戸市須磨区高倉台6丁目14-22		
自己評価作成日	令和3年4月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1)開設してまだ1年が経っていない、新しい施設
2)「笑顔」と「自由」の溢れる楽しい施設
3)全国に約300ヶ所の「そよ風」がある大きな会社

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国的に事業を展開する法人が運営する、開設後8カ月の新しいグループホームである。緑に囲まれた高台の静かな住宅地にあり、四季折々の自然が楽しめる。館内は採光が良く清潔感のある生活空間で、テラスでパラソルを広げてお茶を楽しんだり、庭の菜園で花や野菜を育てる等、快適に過ごせ環境である。外出や地域交流が困難な時期であるが、季節感・行事食を採り入れた手作りの食事を提供し、可能な範囲で散歩やドライブに出かけ、日々のレクリエーションや毎月の行事を行う等、日常生活の中に「笑顔と自由」があふれるよう取り組んでいる。年間スケジュールをもとに各種会議・研修・訓練を行い、職員の資質向上と連携に努めている。自治会の協力を得て、コロナ禍終息後は地域交流に積極的に取り組むことを予定している。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年4月25日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「笑顔と自由」という理念をかかげ、お客様だけではなく職員も笑顔が多く見れる事業所に向け、日々頑張っております。しかし、コロナの影響もあり、外出等がなかなかできていなのが現状です。</p>	<p>事業所独自の理念・基本方針を作成し、事務所に掲示し、入職時に管理者が説明し共有を図っている。「そよかぜ通信」にも記載し、家族との共有にも努めている。全体会議で、利用者の「笑顔」が見られる「自由」で楽しい環境づくりにつながる支援や活動に向けて話し合い、理念の実践に向け取り組んでいる。</p>	<p>理念に地域密着型サービスの意義を盛り込まれることが望まれます。フロア目標が設定されていますので、今後も理念をもとに各フロアの目標を設定し実践状況を評価しながら、理念の実践に向け具体的に取り組まれることを期待します。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナの影響もあり、地域のイベント等に参加できていない。散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況です。</p>	<p>自治会に加入し、自治会長から地域のイベント等について情報を得ている。職員を通して、自治会や婦人会とのつながりがある。近隣や公園への散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしたり、時期や時間帯を考慮しながらドライブや買い物に出かけたり、餅つきの際自治会の協力を得る等、可能な範囲で地域とのつながりが持てるように努めている。コロナ禍終息後は、地域交流・地域貢献に積極的に取り組む予定である。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>コロナの影響もあり、地域のイベント等に参加できていない。散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況です。</p>		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の開設後、1度しか開催できておりません。未開催時には、現状等の報告書を作成し、請求書等の送付時に同封しております。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・自治会長・地域住民代表・他事業所管理者を、運営推進会議の構成メンバーとしている。令和2年8月に開設し、9月に利用者・家族が参加して開催した。会議では、「そよかぜ通信」を配布し、Ipad内の写真を見ながら、利用者の状況・事業所の取り組みや活動・ヒヤリハット事故・身体拘束虐待防止委員会等について報告を行い、質疑応答・意見交換などを行った。それ以降は、書面会議とし、議事録を構成メンバー（全家族含む）に郵送し報告している。	議事録は設置等により公開することが望まれます。郵送する議事録に意見・情報・質問等の返信欄を付け、返信内容を次回の議事録で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響もあり、市町村との連携は図れていません。運営推進会議の議事録等を報告するのみです。	運営推進会議を通して地域包括支援センターとの連携がある。区の保護課と協働して、利用者の支援を行っている。市からコロナ関連の最新情報の提供を受け、事業所の感染予防対策に反映している。須磨区本区のグループホーム連絡会に加入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。	「身体拘束等適正化のための指針」「身体拘束適正化マニュアル」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。全体会議の中で「身体拘束等適正化・虐待防止検討委員会」を月に1回開催し、スピーチロック（言葉による行動制限）の防止に向け意識向上に努めている。議事録を作成し、参加できなかった職員は議事録の閲覧で周知を図っている。「身体拘束適正化」について、法人の入社時研修と事業所内研修で学ぶ機会を確保している。事業所内研修は全体会議の中で実施し、受講者は「研修報告書兼アンケート」を提出している。参加できなかった職員は、資料配布と「研修報告書兼アンケート」の提出で周知を図っている。ユニットのドアと玄関の開錠は操作が必要であるが、利用者に出発の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように努めている。コロナ禍終息後には、ユニット間・館内の往き来を自由にする予定である。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。	高齢者虐待防止についても、身体拘束適正化と同様の方法で、委員会と研修により意識向上に努め、不適切ケアの防止に向け取り組んでいる。管理者が定期的にも随時にも面談を行い、有給休暇取得促進やシフト調整等により働きやすい環境づくりに努め、認知症ケア研修(年2回)で理解を深める等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の開設後、研修を1度実施しております。	開設前研修で、権利擁護に関する制度について研修を実施している。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、金銭管理関係の書類の提供や利用者の状況の報告等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が窓口となり、関係機関と連携して支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をしっかり取り、説明を行っております。また今回の法改正で改定された分に関しても、重要事項説明書(別紙)にて取り交わしを行いました。	入居希望があれば、現在は部分的な見学と、パンフレット・料金表で説明している。契約時は、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って丁寧な説明に努め、文書で同意を得ている。入院時・重度化対応については特に詳細に説明し、不安の軽減に努めている。契約内容に改定がある場合は、変更内容を重要事項説明書別紙で説明し、同意書で同意を得ている。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を用意し、誰でも意見が言える環境を作っております。	利用者の意見・要望は、日々の会話の中で把握に努め、献立や活動(ドライブ等)に反映している。家族の来訪時や電話対応時に利用者の近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。面会が困難な状況であるが、「そよ風通信」に写真を多数掲載し、利用者の様子を伝えられるよう工夫している。センター長直通の電話・メールでの連絡、利用者担当職員の設置、玄関先の意見箱の設置等、家族が意見・要望を伝えやすいよう取り組んでいる。把握した内容は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談等を行い、不安や不満等の確認を行っています。	月に1回各ユニットでユニット会議を実施している。ユニットリーダーが事前に議題を収集し、業務・行事・利用者支援等について効率的に検討している。全職員対象に、月に1回全体会議を実施し、法人・事業所・利用者についての情報共有、「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」、事業所内研修を行っている。ユニット会議・全体会議に参加できなかった職員には、議事録の閲覧により周知を図っている。リーダー会議(管理者・計画作成者・ユニットリーダー)を月1回実施し、経営・運営・人事等について検討している。定期的、随時に管理者が個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。管理者が法人の事業所会議(月1回)に出席し、職員の意見を伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度「人事考課」を実施し、労働実績や功績によって、給料の見直しを行っております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの能力に把握をし、定期的に指導や研修を実施している。また経験者に関しては、外部の研修等にも参加して頂いている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫県内に8か所の系列施設があり、定期的に研修等に行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の個々の声や要望を大事にし、可能な限り応えるようにしています。(食事の内容やドライブに行きたい場所等)		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、外部のサービスには頼らず、センター内でできるかどうかの確認を行います。不可能な場合や本人や家族の強い希望があった際に実施しております(訪問リハ等)		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に「家」として、職員に対応するよう指導・説明をしており、過度な介護サービスを行わず、一緒に何かをするようにしています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時以外であっても、良かったことや新しく発見した事等を報告するようしております。また居室担当を決めており、担当者と家族の関係を深めるようにも工夫しております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、面会や思い出の場所への外出等ができておりません。	現在は、馴染みの人との面会や交流、馴染みの場所への外出が困難な状況である。アセスメントシート等に、利用者個々の馴染みの人や場所に関する情報を記録し、コロナ禍終息後の関係継続の支援に活用する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々レクリエーションや体操等を行い、居室内等で孤独にならない環境にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方が1名のみですが、ご家族様が入院されており、連絡が取れております。今後は、契約終了者が出た場合に関しましては、関わりを持っていきたいとおもっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようにしております。	入居時の面談や日々の会話の中で利用者の思いや暮らし方の希望の把握に努め、日常生活の中で趣味や得意を活かせるよう支援する等、反映できるよう取り組んでいる。また、介護計画の見直し時にアセスメントを行い、把握した思いや意向を介護計画に反映している。把握が困難な利用者については、表情や反応から汲み取れるように努めている。	日々の会話や気づきの中で職員が把握した、利用者の馴染みの関係、思いや意向等を共有し、情報として蓄積し、個別支援に活かせるような仕組みづくり(書式)を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居されて8か月が経過したこともあり、一日のスケジュールに関して、把握でき始めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の更新等の際は、モニタリングやアセスメントを行い、ユニット会議等にて現状の確認等を行った後に、作成するようしております。	「アセスメントシート」を基に課題分析を行い、「認知症対応型共同生活介護計画」を作成している。各ユニットに「介護計画ファイル」を設置し、利用者個々の介護計画の内容の周知を図っている。日々のサービス実施について、「介護記録」「モニタリング結果」「各種チェック表に」に記録している。「モニタリング結果」は、介護計画のサービス内容を職員が理解し、介護計画に沿った実施状況を記録する書式となっている。日々の「モニタリング結果」から月毎に実施達成率を数値化し、必要に応じてユニット会議で検討している。定期的には6ヶ月毎に、必要時には随時、介護計画を見直している。見直しの際は、「モニタリング総括表」での評価と「アセスメントシート」での再アセスメントをもとにサービス担当者会議を実施し、現状に即した介護計画の作成と実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々モニタリングを実施し、気づき等があった際には記録や申し送りノート等に残すようしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のADL等に変化があった際は、柔軟に対応すうようしております。		



神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、地域資源の活用ができておりません。	/	
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、往診医が来ております。 また24時間対応も可能であり、夜間等の連絡にも応じてくれます。	法人の協力医療機関から、週1回内科医の往診があり、24時間の医療連携体制が整備されている。週1回の歯科医の往診と、訪問看護による健康管理体制もある。受診前に事業所から「バイタル表」「入居者情報シート」で利用者個々の健康状態や変化等を事前報告し、受診結果や医師や看護師からの所見や指示等を記録している。往診医が通院を要すると判断した場合は、往診医から医療機関に情報提供があり、医療機関からの送迎車や家族の同行を依頼し、適切な医療が受けられるよう支援している。往診・通院については「介護記録」に記録し、「申し送りノート」で職員間で共有している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護が来ております。 医療連携体制加算も取得しており、24時間の対応も可能となっております。	/	
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院の医療連携室の相談員さんと定期的な連絡・連携を図り、ご本人様が退院しても安心して頂けるようにしております。	入院時は主治医からの情報提供と、事業所から「アセスメント表」「介護サマリー」服薬情報等で情報提供している。現在は、面会が困難な状況であるので、家族や医療連携室と電話で情報交換し、連携を図りながら早期退院に向け支援している。把握した情報は口頭での伝達と「申し送りノート」で職員に周知を図っている。退院前には医療連携室から改めて現状を把握し、「看護サマリー」の提供を得て、退院後の適切な支援に活かしている。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された方はいませんが、入居時に重度化の指針の説明を行い「看取り」も可能であることを伝えております。	契約時、「認知症対応型共同生活介護における重度化した場合の対応・急性期における医師及び医療機関との連携体制・看取り対応に関する指針」に沿って、事業所としての方針を丁寧に説明し同意を得ている。現在までに事例はない。今後の重度化の事例については、事業所が主治医の見解を確認した上で、家族を交えてカンファレンスを行い、家族が主治医から現状説明を受け、家族に看取り介護の希望があれば、看取り介護計画を作成し、主治医・訪問看護師など関係者と連携をとりながら、家族の意向に沿った支援に取り組むこととしている。開設前研修で、「看取り介護について」研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故があった際は、事故報告フローに沿って対応しております。また、研修等も定期的に行っており、対応が遅れないようにしております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の消防訓練を実施し、自然災害や火災等があった際の対応等の訓練を実施しております。地域の消防訓練に関しては、コロナの影響により開催されておられません。	令和2年11月に「日中火災・事前災害による避難訓練」研修を実施している。令和3年1月・3月にそれぞれ防災訓練計画書に基づき昼間想定・夜間想定で実地訓練を実施している。今後は消防署の立ち合い要請や、地域の消防訓練が再開された際には積極的に参加し、地域との協力体制構築に努めていく方針である。災害に備えた備蓄は法人が支給・管理し、事業所の倉庫に3日分の物品を保管している。	訓練実施後に、実施状況や評価を記録した実施報告書を作成し、参加できなかった職員にも回覧や会議で周知すると共に、次回の訓練に活かされることが望まれます。

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設して8か月が経過し、職員とお客様との関係も親しくなるころである為、身体拘束・虐待防止委員会にて「声かけ」に十分に注意するよう伝えております。	法人の入社時研修と事業所内研修で、「身体拘束・虐待防止」「個人情報保護」「認知症ケア」等の研修を実施し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。また、管理者や「身体拘束・虐待防止委員会」からも、随時注意事項を発信している。個人ファイルは施錠できる書庫に保管し、利用者の写真使用については同意書を得る等、個人情報の適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはお客様に自由に過ごしていただいておりますが、居室にて過ごすことが多い方に関しては、フロアでのレクや体操に参加して頂くよう声かけしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人様に任しておりますが、同じ服装ばかりになってしまう方に関しては、起床時にご本人様にその日の洋服について声かけを行い決めて頂いております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響もあり、現在食事作りを一緒に行っておりません。洗い物のみ、可能な方に声かけし、実施して頂いております。	法人の管理栄養士が、栄養バランス、行事食、季節感を採り入れて献立を作成している。各ユニットで利用者の希望や嗜好に配慮したアレンジを加え、食材を発注して、毎食手作りの食事を提供している。毎日の検食簿と、法人のフードサービス課による3ヶ月毎の食事アンケートをもとに、栄養管理士が利用者の嗜好や意向を把握し献立作りに反映させている。利用者個々の体調や状況に応じた、形態や塩分量等には各ユニットが対応している。行事食、誕生日会、屋外テラスでバーベキュー、おやつレクリエーション等、変化を楽しめる多様な機会を設けている。現在は、食事づくりへの参加は休止しているが、食器洗いやおやつレクリエーション等には参加できるよう支援している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	性別や体格、病状によって食事の内容を変えております。(減塩、主食の量の調整等)		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、口腔ケアの声かけ等を行い実施して頂いております。また訪問歯科とも連携しており、定期的に口腔内の確認を行っております。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、失禁等がないように注意しております。また夜間のパット等に関しても、無駄が出ないようにサイズや容量、金額等を検討してから使用するようしております。	現在、利用者の排泄についての自立度が高く、概ね自立している状況である。排泄チェック表で排泄状況・パターンを把握し、必要に応じて声かけや確認を行い、失敗や不快感が無いよう個々に応じた支援を行っている。検討が必要な場合は、ユニット会議で課題を共有し、現状に即した支援方法や排泄用品の使用等を検討している。トイレのドアをオレンジ色でわかりやすく表示し、混乱なくトイレでの自立した排泄が継続できるよう配慮している。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、体操や近隣への散歩等の運動を実施し、食事でも納豆やヨーグルト等の乳酸菌を多く含む食材を提供しております。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回の実施としており、平等性と定期的な清潔保持の為に、曜日を固定しております。	週2回の入浴を基本とし、入浴チェック表で入浴状況を把握している。個浴で一人ずつ更湯にし、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。入浴剤の使用や、ゆず湯・菖蒲湯等で季節感を採り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。希望があれば同性介助で対応し、入浴拒否がある時は無理強いせず、声掛けのタイミングや日を変更する等、個別の配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、ご本人様の自由としており、こちらから入眠を促すことはほとんどありません。また朝に関しても、無理して起きて頂くのではなく、お客様のペースにて起きて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬に関しては、往診医や薬局の薬剤師等と現状の報告・確認を行い、定期的に内容や量の調整等を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようしております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、遠出はできておりませんが、近隣の散歩や花見のドライブ等を行い、気分転換して頂くようにしております。	自然豊かな環境の下、日常的に近隣に散歩に出かけている。外出行事が困難な現状であるが、感染対策に配慮しながら、少人数ずつの花見や、利用者の希望に応じた海等へのドライブに出かけている。庭の花壇で水やりや野菜の収穫を行ったり、テラス席で外気浴する等、外気に触れ、気分転換する機会づくりに努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には紛失が無いように、金庫にて預かっており、必要な時には職員と一緒に買い物に行くようにしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、自由に電話ができる環境にはしてはおりませんが、ご本人様の状態等にて必要がある場合のみ、ご家族様等へ連絡するようにしております。また手紙に関しては、年賀状等にて実施しております。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやイス等にて、フロアにてゆっくりできる環境になっております。またトイレはオレンジ色にし、他の方の居室と間違わないような工夫もしております。	大きなガラス扉から入る自然光で明るく、緑豊かな自然が臨める環境である。木目調で落ち着いた清潔感があり、テーブル席・ソファ・4種類の飲料の給茶機が配置され、くつろげる環境づくりに配慮している。キッチンから調理の音や匂いを感じられ、利用者が食器洗いや洗濯物たみ等に参加し、生活感が感じられる。季節の装飾品や、利用者が共同で制作した季節感のある作品を飾り、季節感を採り入れている。広い直線の廊下に手すりを設置し、歩行リハビリに活用している利用者もいる。フロアのガラス扉を開けるとテラスと庭があり、利用者が外気浴やお茶を楽しんだり、花壇で季節の花々や野菜を育てられる環境がある。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いており、ゆっくりできるスペースを確保しております。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人様にとって思い出のある物等を持参して頂き、「自分の部屋」と認識して頂けるように工夫しております。	各居室に、ベッド・クローゼット・エアコン等が備え付けられている。日中は大きな窓から自然光が差し込んで明るく、夜は白色・暖色の明かりを好みに調整している。家族の協力を得て、ソファやたんす、寝具、テレビ等の使い慣れた家具や道具、また、仏壇・家族の写真・人形等好みの物が持ち込まれ、その人らしさを感じられる。居室担当職員を設置し、本人・家族と話し合いながら、衣替えや居心地よく過ごせる環境作りを支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造になっており、フロア内に関しては自由に移動できるようになっております。		